

横浜能楽堂 令和 6 年度指定管理業務評価（外部評価）

	諸貫委員	高橋委員	張委員	横山 委員
使命 1 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展に寄与する	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本拠地である横浜能楽堂が改修期間に入り、全面的に事務所および事業場所が移る中、着実に公演・ワークショップ等を実施できていることを評価します。特に横浜市内の行政区 18 区すべてを開催場所にして事業を展開される目標を立て実施していることは、地域の文化振興、再開場後の事業展開にとって特筆すべき成果と考えられます。</li><li>・琉球芸能公演を沖縄タウンもある鶴見区で実施するなど、これまで横浜能楽堂が積み重ねてきた企画力を能楽堂外で発揮していることは高く評価します。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和 6 年度は比較的普及目線の事業展開が多かった印象でしたが、7 年度はぜひ能・狂言について横浜能楽堂らしい先端的な企画の公演を期待します。</li><li>・今年度に着手し、令和 7 年度に公開予定の横浜能楽堂アーカイブに期待します。</li></ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・能楽堂自体は休館中ながら、各地で公演やワークショップを企画・実施して、能楽の普及につとめる一方、多くの人が利用するランドマークプラザの中の「OTABISHO」を休館中の拠点として効果的な発信を続けている。4 月に OTABISHO のオープニング・パフォーマンスとして、桜木町駅前からランドマークプラザまで郷土芸能 3 団体によるお練りを行い、ランドマークプラザ 1 階で大蔵流・和泉流の立ち合いの形で三番三・三番叟を上演したのは、特にインパクトがあり、多くの方に観ていただける機会となった。</li><li>・「18 区つながる能楽プロジェクト」は、令和 6・7 年度をあわせて横浜市内の各地区で公演・ワークショップ等の計画を立てており、令和 6 年度中に 18 区中の 10 区で実施できたという点も、市民に広く古典芸能を知ってもらうための活動として評価できる。会場の確保や準備、広報等も含めて普段と異なる条件での大変さがあったと思うが、初めて能楽を観た方も多かったというのは何よりのことである。鶴見区で地域の特性をふまえて琉球舞踊の公演を行った企画も良い。解説動画の視聴数も、大きく伸びている。能に親しむ機会を様々な提供し、能楽や古典芸能の振興について、役割を果たしている。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>休館が続く中でも、引き続き能楽・古典芸能に関する情報発信や、市内の別施設を利用した企画の実施などを続け、これまで横浜能楽堂に通っていた能楽ファンとのつながりを大切にしつつ、新しい観客の開拓につとめていただきたい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・休館中ながらも、「18 区つながる能楽」プロジェクトなどを実施し、地域に根ざした普及活動に取り組みました。特に OTABISHO 横浜能楽堂の総来場数は 23,426 名にのぼり、昨年度の 13,972 名から大きく増加しました。若年層や外国人など新たな観客層を開拓し、能・狂言の裾野を広げた点は高く評価できます。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「18 区つながる能楽」プロジェクトでは、観客動員が伸び悩んだ会場も見られましたが、ターゲット層に応じた広報手法や、継続的なフォローアップにより、地域に根ざした動員強化が期待されます。</li></ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・市内各所での公演事業、ワークショップ、展示事業など、様々な形で古典芸能に触れる機会を展開されたことを評価します。</li><li>・特に、地域性を活かした鶴見区での企画公演、施設運営者と連携したバリアフリー能などは、様々な会場で実施したからこそ得られた成果があったものと拝察します。</li><li>・事前講座と連携した普及公演は、KPI 達成のみならず、鑑賞を深める効果があったものと想定されます。さらに、未就学児やビジネスパーソン等、対象者を絞っての取組など、様々なアプローチで古典芸能に触れる機会を創出されたことを評価します。</li><li>・動画配信事業としてインスタライブを実施するなど、試行的な取組を実践されたことを評価します。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・休館期間中の取組成果は、横浜能楽堂リニューアル後の企画検討にあたり、重要なエビデンス、材料として活用されるものと思われます。期待を超える動員が達成できた事業に対し、KPI に届かなかった事業もある中で、広報の手段については効果分析を実施し、その結果を今後の運営に活かすことを期待します。</li></ul>
使命 2 能楽等に携わる人材を育む	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和 5 年度評価で指摘された普及事業の能・狂言のバランスについては解消されたものと評価します。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和 5 年度に続いて 6 年度も「先生のための講座」の参加者が少ないことが残念です。市や教育委員会など関係機関と連携してぜひ多くの参加者を持てるよう期待します。</li></ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・こども狂言堂、こども狂言ワークショップ、こども能楽研究所など、小さいうちから能楽等に関わる機会を提供している。小学校でのプログラムの他に、神奈川大学など大学での講座・セミナーなどの取り組みでも、若い人材育成につとめており、評価できる。「柿山伏」の動画に英語字幕を付けた点も、英語圏・英語話者に対する発信として評価したい。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもに教える立場の先生のための狂言講座については、人数が少なかったようで、休館の影響もあると思うが、早めのお知らせ等につとめていただきたい。</li></ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもや大学生を対象とした事業の実施や、若手演者の積極的な起用を通じて、次世代の育成に幅広く取り組んだ点は高く評価されます。あわせて、プロデューサーによる外部への発信力が強化され、専門人材の育成が着実に進んでいる点も評価に値します。さらに、京都芸術大学および神奈川大学の学生を対象とした講座には、延べ 110 名が参加しており、将来の進路の一つとして能楽に触れる機会を提供したことは、教育的・文化的観点からも大きな意義があると考えられます。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教員向け講座では、参加者の減少が見慣れました。また、告知不足による参加者層の偏りが生じている点が課題です。周知方法の多様化や参加者ニーズの的確な把握を通じて、より効果的な人材育成施策の実施が求められます。</li></ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・こどもを対象とした事業については、狂言にはじめて触れるきっかけづくりから、一度だけの体験にとどまらず、次のステップに進めるための受け皿や同様の関心をもつ子どもたちが一堂に会する機会をつくるなど、精力的に取り組まれている点を評価します。</li><li>・大学生向け事業では、オンライン講座とすることで、立地を問わず、限られた時間で参加できるなど、物理的にも心理的にもハードルを下げ、若者が参加しやすい環境をセットし、若手演者起用の機会を創出している点を評価します。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・KPI に届かなかった事業については、要因分析がなされており、今後の改善につなげる検討がなされているものと拝察します。</li><li>・各事業をきっかけとして、継続的な人材育成に繋がるような工夫を講じることを期待します。</li></ul>

横浜能楽堂 令和6年度指定管理業務評価（外部評価）

使命3 市民の活動の場となる 能楽等をはじめとする	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・能楽堂再開場後に向けて過去の利用者との関係を継続していることを評価します。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>特にございません。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大規模改修のため休館中ということで、特記する点はないが、相談対応や道具の貸し出し対応を続けている。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>特にございません。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・休館中であっても、体験講座の実施や道具の貸し出しなどを通じて市民活動を継続的に支援することは、再開館後を見据えた有効な施策と評価できます。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本舞台が利用できない休館期間においても、市民活動団体との接点を増やすための交流の場の創出や、市民ニーズの丁寧な把握する姿勢が一層求められます。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・横浜能楽堂リニューアル後、スムーズに活動が実施できるよう休館中の利用団体に対するサポートを継続して実施されているほか、能楽への関心を有する方を取りこぼさず、団体を紹介するなど、市民活動のコンシェルジュ的な役割を果たされている点を評価します。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・横浜能楽堂リニューアル後、能楽等をはじめとする市民の活動の場となるだけでなく、関心を有する市民が気軽に立ち寄れる居場所づくりを視野に入れて頂くことを期待します。</li></ul>
	諸貫委員	高橋委員	張委員	横山 委員
使命4 能楽等や施設の魅力を発信を行う	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ランドマーク内 OTABISHO での能楽及び横浜能楽堂の魅力発信を行って多くの来館者を得ていることを評価します。その展示方法についても様々に工夫を凝らして集客に努めていることを確認しました。</li><li>・資料の広報実績一覧を見ると様々な媒体を使ってよく広報に努めていることが分かります。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・再開場後も魅力発信・能楽堂への集客のためにも、ランドマークでの事業展開を継続できないものか検討してもらえるとよいと思います。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・OTABISHO において、見学や取材に対応し、PR 動画の放映や説明を通して、能楽の魅力や、歴史ある横浜能楽堂の舞台の意義を伝えており、スタンプラリーへの参加なども工夫している。また、様々な媒体で広報活動をしており、LINE での発信に加え、インスタグラムのアカウントを開設したのは、今の若者に向けた、時代に合った広報戦略と思われる。各種 SNS での発信が、令和6年度合計で1527回に及んでいる点、SNS ストーリーズのアップで最多動画再生回数が12248回に達した点は、地道な努力の結果であり、特に評価できる。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>引き続き、リニューアルオープン後も多くの方に足を運んでもらえるよう、SNS などの媒体の効果を分析しながら、継続して取り組んでいってほしい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・OTABISHO での展示やメディア露出により、施設と芸能の両面において広報活動が充実しています。特に SNS にアップされた動画が最大で12,248回再掲されたことは、横浜能楽堂の魅力が広く発信された成果として評価に値します。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・話題性を継続させるためには、SNS による発信に加え、リアルイベントを定期的実施することが重要です。展示内容の刷新や来場者のフィードバックを反映させることで、情報発信の質的向上が期待されます。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・蔵書の公開や魅力的なメニューがラインナップされたワークショップを開催するなど、OTABISHO を効果的に活用されています。ミニチュア展示については、限られたスペースでの説明に適していると共に、相性の良い SNS での情報発信に効果的に活用している点を評価します。</li><li>・メディアへの露出や SNS を活用した情報発信に継続的に取り組まれている点を評価します。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・SNS でアピールした結果、来場者増につながったかの効果、リーチと登録者数の動きにも注目するなど、今後の展開に活用されることを期待します。</li><li>・限られたリソースで複数 SNS 媒体を運営されているものと拝察します。既存メディアでの露出機会も活かし、時宜を得た最適なタイミングでのポストなど、効果的なクロスメディアの活用期待します。</li></ul>
使命5 持続可能性を高める施設運営を行う	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・改修に入り施設使用料収入がゼロになっているところ、指定管理料、助成金は問題なく確保していることを確認しました。</li><li>・オリジナルグッズを開発してショップで販売、収入確保に努めていることを評価します。</li></ul> <p>各所での事業展開時にもぜひ多く販売していかれることを期待します。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>特にございません。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大規模改修のため休館中ということで、施設維持自体に特記する点はないが、OTABISHO のショップでのオリジナル商品の開発なども評価できる。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>特にございません。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>ショップ運営や企画力の強化によって、収益の確保と能楽の普及を両立させようとする姿勢は、高く評価されます。また、休館中に進められている①市域に出向く取り組みと、②横浜中心地で新たなターゲット層と接触する試みは、予想以上の成果を上げています。これは運営側の柔軟な対応力と果敢な挑戦姿勢の功を奏した結果であるといえます。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>事業の収益化モデルを、より確立していく必要があります。商品開発、広報活動、コラボレーションの展開などを通じて、継続的にブランド力を高めていくことが期待されます。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・助成金を獲得されたことを評価します。また、自主事業収入確保に向けて新たな広報ツールを活用するなど、積極的に自主財源の獲得に取り組まれていることを評価します。</li></ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自主事業、助成金等収入の下振れ、事務費、管理費等支出の上振れにより、収支は厳しい状況となっています。</li><li>・ビジネスパーソン向けの企画が好評を博したことを背景として、企業など新たな協賛や連携先の獲得、すでに開発された能舞台模型キットを高単価商品としてラインナップする等、収入増につながる工夫を講じることを期待します。</li></ul>

横浜能楽堂 令和 6 年度指定管理業務評価（外部評価）

	諸貫委員	高橋委員	張委員	横山 委員
その他	特にございません。	特にございません。	特にございません。	特にございません。
総括	<p>横浜能楽堂が改修期間となり、事業実施に様々な困難が伴っていることと推察しますが、それを逆手にとって、OTABISHO をはじめ市内各所で事業を行うことでこれまで全く能・狂言に触れてこなかった多くの初心者に機会を与えていることを高く評価します。引き続き能楽および横浜能楽堂の魅力を発信・普及していかれることを期待します。</p>	<p>能楽堂の大規模改修による休館という条件下ながら、多くの取り組みを行っている。OTABISHO での見学や取材の対応、PR 動画の放映などを通した普及活動、また地域施設での子ども向けの企画も含めた体験ワークショップや講座など、能に親しむ機会を様々に提供し、能楽や古典芸能の振興に役割を果たしている。</p> <p>OTABISHO のオープニング・パフォーマンスとして、桜木町駅前からお練りを行い、ランドマークプラザ 1 階で大蔵流・和泉流の立ち合いの三番三（三番叟）を上演したのは、特にインパクトがあった。「18 区つながる能楽プロジェクト」を 18 区中の 10 区で実施できたのも、市民に広く古典芸能を知ってもらう機会となっており、初めて能楽を観た方も多かったという点も評価できる。</p> <p>令和 7 年度も、外の施設や OTABISHO 等において能楽の魅力や、歴史ある横浜能楽堂の舞台の意義を伝え、広報を行って、リニューアルオープン後も多くの方に横浜能楽堂に足を運んでもらえるような取り組みを期待する。また、改修工事を問題なく進めていくと共に、リニューアルオープン後に継続して多くの方に来館していただけるよう、準備を進めてほしい。</p>	<p>令和 6 年度は休館中でありながら、市域における新たな取り組みや OTABISHO 横浜能楽堂の活用を通じて、多様な客層との接点拡大と人材育成を着実に実現しました。展示・販売面での工夫や若手人材の積極的な起用により、収益の確保と将来への投資にもつながっています。一方で、地元での集客力や情報発信力には依然として課題が残っています。収支の安定化に向けては、継続的な広報活動や商品開発、人材戦略の強化が重要な課題です。</p>	<p>・「市域に出ること、横浜の中心地でターゲットを変えることの 2 種類の方法で普及に取り組んだ」という令和 6 年度の業務の方針が効果的に展開されていると拝見しました。毎回異なる会場で公演やワークショップを実施することは、様々なご苦勞を伴うものであったと思われますが、つつがなく事業を推進し、地域に寄り添う事業が実施できたものと評価します。ターゲットとしてビジネスパーソンに焦点を当てられた点に着目しており、新たなファン層の開拓に繋がることを期待します。</p> <p>・また、商業施設に能・狂言に触れることができる拠点を設置して、新たな観客や能楽ファンを創造することにつとめられました。限られたスペースの中で、ギャラリー、プロモーション映像上映、物販、ワークショップ、インスタライブ等、趣向を凝らし、能・狂言に触れる間口を広げ、積極的に新規開拓に取り組まれました。</p> <p>・各種 SNS の特性に応じた情報発信に積極的に取り組まれています。紙媒体やラジオ等の既存媒体と SNS の連携により、限られたリソースでクロスメディアを効果的に活用することで、周知にとどまらず、鑑賞者の創出につながる展開となることを期待します。</p>

行政評価

【使命1】能、狂言その他の古典芸能の振興・発展に寄与する

【評価できる点】

・横浜能楽堂の休館により、計画どおり各区区民文化センターなどの施設で公演事業やワークショップを展開したことが確認できました。普段、横浜能楽堂へ来館が少ない市民や横浜能楽堂を知らない市民への広報により、市内の広いエリアから来場者を得ることが確認でき評価できます。

・企画公演や、特別展では、各区の特性や施設特性を生かした事業を実施できました。入場者数は目標に及ばなかった事業もありますが、横浜能楽堂へ普段足を運びづらい市民にも横浜能楽堂の存在を周知できたという成果が得られました。これは、今後の集客や文化振興にも繋がる可能性があると確認できます。

・「18区つながる能楽プロジェクト」として、横浜能楽堂へアクセスが難しい地域も含め、各地でワークショップや講座を展開しました。また、大人だけでなく、こどもを対象とし、年齢を問わずに実施したことも評価できます。

【より一層の取組を期待する点】

・どの区から来場者が多かったか、どの広報手段が効果的だったかなどを分析することで、次回以降の広報戦略や企画内容に役立てられます。来場者が少なかった区については、今後の展開に向けた改善方法を検討し、今後の展開に向けて取り組んでください。

・様々なエリアでのアウトリーチを実施したことで、今までに能、狂言を知らない方々に参加いただいたと同時に、横浜能楽堂の存在を広く知ってもらうよい貴重な機会となりました。今後実施する区での公演やワークショップなどについても、計画的に実施し、1人でも多くの方に、能、狂言や古典芸能の魅力を周知できることを期待しております。

【使命2】能楽等に携わる人材を育む

【評価できる点】

・こどもの年齢を問わず、幅広く事業を展開したことが確認できました。継続的に実施している「こども狂言堂」や「こども狂言ワークショップ」に加え、夏休みこども相談会の事業として、「こども能楽研究所」をこどもたちの夏休み、冬休み期間に実施しました。能、狂言を知らないこどもたちや子育て世代にとって能楽に触れるきっかけとなった点が評価できます。

【より一層の取組を期待する点】

・「先生のための狂言講座」について、目標よりも大幅に下がる結果となりました。会場が横浜能楽堂での実施ではないため、広報や集客に十分な時間と工夫をかけて実施していくことが必要です。次回は多くの参加者を集められるよう、広報戦略や地域教育機関との連携強化などをできるよう期待しております。

・夏休み期間をターゲットにこどもに親しみが得られるよう、「こども能楽研究所」として、事業を展開しました。こどもの年齢や興味に応じた体験プログラムを検討し、能、狂言に限らず、古典芸能を知るためのきっかけになるような取組を展開できるようにしてください。

【使命3】能楽等をはじめとする市民の活動の場となる

【評価できる点】

・横浜能楽堂が大規模改修工事により休館期間であるため、使命3については、特記すべき事項はありません。

【より一層の取組を期待する点】

・横浜能楽堂が大規模改修工事となったため、貸館運営はできませんが、貸館再開後に向けての団体相談対応や備品貸出等のサポートを実施できました。大規模改修工事前の横浜能楽堂利用団体が再開後も戻ってくるよう、関係性の維持と信頼構築を継続できるよう取り組んでください。

**【使命4】能楽等や施設の魅力の発信を行う**

**【評価できる点】**

・OTABISHO横浜能楽堂で、能、狂言をまったく知らない方が親しみをもてるよう展示や来館者の解説対応に取り組んだことが確認できます。来館者に対して丁寧な案内や情報提供を行うことで、能楽や施設の魅力を積極的に発信し、関心を高めるきっかけを創出できたと評価できます。

**【より一層の取組を期待する点】**

・能舞台が大規模改修工事により、施設の魅力の発信方法が難しいところではありますが、能楽等を知ってもらうために、継続してワークショップや講座に参加できるよう取り組んでください。

・現在のOTABISHO横浜能楽堂は、パシフィコ横浜など大型施設にも近いエリアに位置しており、再開館後のユニークベニューとしての活用やアフターコンベンションの場としての展開が期待できます。そのため、地域のコンベンション関係者や観光事業者とのヒアリングを通じて、ニーズの把握と連携の可能性を探れるよう取り組んでください。

**【使命5】持続可能性を高める施設運営を行う**

**【評価できる点】**

・OTABISHO横浜能楽堂の開設に合わせ、インスタグラムアカウントを創設し、積極的に発信を実施しました。視覚的に魅力を伝えることができるSNSの特性を活かし、能楽や施設の魅力を広く発信することで、若年層やSNS利用者層へのアプローチが可能となったことが評価できます。

・自主事業収入の確保方法として、ショップの運営を実施し、オリジナル商品を販売しました。能・狂言や古典芸能など、和文化をテーマにした商品展開を行い、来館者やイベント参加者に対して魅力的な商品を展開できました。

**【より一層の取組を期待する点】**

・横浜能楽堂が引き続き大規模改修工事により、休館中ではありますが、一部稼働している設備もありますので、工事業者との連携を継続しながら、施設の状況を適宜確認してください。

次ページへ続きます

## 横浜能楽堂 令和6年度指定管理業務・行政評価シート

<p><b>総括</b></p>	<p>横浜能楽堂の休館により、区民文化センターなど市内各所で公演事業やワークショップを計画どおり実施し、市内の広いエリアからの来場者を得ることが確認でき、評価できます。</p> <p>特に、鶴見区で実施した企画公演「琉球舞踊・鶴見ちゅらしま座」や港北区で実施した「バリアフリーワークショップ」については、区の特性や施設特性を生かした取組であり、評価できます。</p> <p>・様々なエリアでのアウトリーチを実施したことで、今までに能、狂言を知らない方々に参加いただいたと同時に、横浜能楽堂の存在を広く知ってもらう貴重な機会となりました。今後実施する区での公演やワークショップなどについても、計画的に実施し、1人でも多くの方に、能、狂言や古典芸能の魅力を周知できることを期待しております。</p> <p>・どの区から来場者が多かったか、どの広報手段が効果的だったかなどを分析することで、次回以降の広報戦略や企画内容に役立てられます。来場者が少なかった区については、今後の展開に向けた改善方法を検討し、今後の展開を期待しております。</p> <p>こどもの年齢を問わず、こどもから学生まで幅広く事業を展開したことが確認でき、磯子区で実施した「こども狂言堂」について、狂言をはじめて見た人が50%という結果を得たことは評価できます。加えて、夏休みや冬休み期間を狙って「こども能楽研究所」を実施したことで、能、狂言を知らないこどもたちや子育て世代にとって、能楽に触れるきっかけとなった点が評価できます。</p> <p>・「先生のための狂言講座」について、目標よりも大幅に下がる結果となりました。会場が横浜能楽堂での実施ではないため、広報や集客に十分な時間と工夫をかけて実施していくことが必要です。次回は多くの参加者を集められるよう、広報戦略や地域教育機関との連携強化などをできるよう期待しております。</p> <p>・OTABISHO横浜能楽堂で、まったく能、狂言を知らない方が親しみをもてるよう展示や来館者の解説対応に取り組んだことが確認でき、能楽や施設の魅力を積極的に発信しました。また、OTABISHO 横浜能楽堂の開所に合わせてInstagramアカウントを創設し、SNSで積極的に発信しました。視覚的に魅力を伝えることができるSNSの特性を活かし、能楽や施設の魅力を広く発信することで、若年層やSNS利用者層へアプローチをできたと確認でき評価できます。</p> <p>・横浜能楽堂が大規模改修工事となったため、貸館運営はできませんが、貸館再開後に向けての団体相談対応や備品貸出等のサポートを実施できました。大規模改修工事前の横浜能楽堂利用団体が再開後も戻ってくるよう、関係性の維持と信頼構築を継続できるよう取り組んでください。</p> <p>・横浜能楽堂が引き続き大規模改修工事により、休館中ではありますが、一部稼働している設備もありますので、継続して工事業者とも連携をとりつつ、確認してください。</p>
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------